

第35部 販路開拓の挑戦②



復興最前線

「と真ん中・おおつ 大震災の津波で工場店
ち協同組合」(芳賀政 輔が全壊した大槌町の
和理事長)は、東日本 水産加工業者4社が2
に取り組んでいる。

水産加工業の連携(大槌)

個の困難 組合で奮闘

全国5千人が資金支援

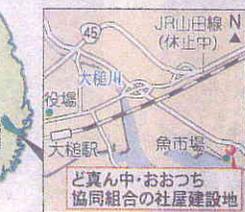


仮設の作業場で営業する芳賀鮮魚店の芳賀政和店主。個々に課題を抱えるから

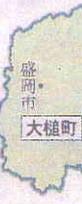
た。2年半が過ぎ、本
年度内に待望の社屋完
成を見込む。それぞれ
設備や人材面など個々
の課題を抱え順風満帆
とはいかないが、辛抱
強く復興への道のりを
歩んでいる。
4社は、芳賀理事長
(69)が店主の芳賀鮮魚
店、小豆嶋漁業(小豆
嶋敏明社長)、浦田商店
(浦田克利社長)、ナカ
シヨク(斉藤勲社長)。
組合としてインターネ
ットでの共同販売など
でそんな言葉を全国に
投げかけた。1口1万
円で寄付を募り、お礼
に海産物を送るサポー
ター制度を企画。12年
品販売、加工商品の共
組の元手は全国か
らの寄付金だ。「やる
気とノウハウはありま
すが、資金がありません」
11年8月、立。支援への感謝を示
す「象徴」と捉えてい
るからだ。
その社屋は同町安渡
田で寄付を募り、お礼
業が進む。完成後は商
品販売、加工商品の共
組の元手は全国か
らの寄付金だ。「やる
気とノウハウはありま
すが、資金がありません」
11年8月、立。支援への感謝を示
す「象徴」と捉えてい
るからだ。
その社屋は同町安渡
田で寄付を募り、お礼
業が進む。完成後は商
品販売、加工商品の共

で約5千人から9千万
円余りが寄せられた。
今夏はキリングループ
からも3600万円の
寄付を受けた。
「新社屋を建設する
ことでこれまで支援し
てくれた人に安心して
務所はこれまで4カ所
を転々とし、今もプレ
ズにいます。
同町と宮古市にあっ
た3工場全てが被害を
受けたナカシヨク。グ
ループ補助金を活用し
12年7月、同町小槌の
旧工場跡地に新工場を
建てた。同町内の被災
した水産加工会社の中
では最も早かったが、
資金不足で工場の規模

同開発の施設としても
機能させる。町外から
も人を呼び込むための
催事や、新巻きサケ作
りの教室開催なども計
画している。



齊藤社長(57)は「売
り上げは回復してきて
はいるが、震災前の水
準に戻すのはまだ敵し
い」と打ち明ける。そ
れでも「大槌を売り込
むための活動してこい
と奮闘の日々だ。



大槌町の水産加
工業者の被災状況
町にすると、震災前の
町内の水産加工業者18社
は全て被災した。今年9
月時点で新規立地業者を
含めた14社が町内の新設
工場や仮設工場などで操
業、または工場の建設を
進めている。

個々には課題が多い
からこそ、組合で手を
携えることが、再生へ
の鍵を握る。芳賀理事
長は「いつまでも『被
災地』と甘えてばかり
はいられない。まず個
々が力をつなげ、協同組
合も自然と大きくなって
いきたい」と気を引
き締める。